爪痕
台風19号豪雨

台風19号で、宮古市も記録的な豪雨に襲われた。宮古の1時間最大雨量84・5ミリ、24時間最大雨量393・5ミリともに観測史上最大。豪雨は山肌を削り、大量の土砂を伴って川や集落に押し寄せ、住民の暮らしに深刻な打撃を与えた。

「ごう音の大雨は生まれて初めての体験。恐怖を感じた」。同市音部の漁業佐々木繁治さん(84)は台風接近時を振り返る。

市内のあちこちで土砂崩落が起こり、同市築地では飲食店店長木村徹さん(59)が自宅裏の様子を確認中に巻き込まれ、病院搬送後に死亡した。

道路の損壊や寸断も深刻で、同市重茂の仲組、追切、千鶏、石浜の4地区は今なお孤立状態が続く。沿岸を南北に走る要の国道45号は、宮古第3トンネルが土砂に覆われ、21日朝まで通行止めとなった。

3月に南北リアス線とJR山田線の一部移管で一本につながったばかりの三陸鉄道は、久慈―釜石間の線路が計63カ所で被災し、全面復旧のめどが立たない。

住民生活や復旧作業の大きな制約となっている断水は21日現在、田老、重茂地区を中心に724世帯で続いている。道路ごと水道管が流され、工事車両が入れない箇所もあるなど復旧作業は長期化しそうだ。

激しい雨で川の支流や沢が暴れ、津軽石川は氾濫危険水位まで達した。排水が間に合わずに逆流する「内水氾濫」や本流の水位が上がって支流があふれる現象も起こり、広範囲で住家被害が発生。市によると20日現在で全壊24棟、大規模半壊12棟を含む計410棟だが、今後の調査が進めば膨らむ可能性が高い。

住家の土砂かき出しや家財道具の洗浄など多くの人手が必要。同市津軽石の自宅が床上浸水した佐々木重雅さん(76)は「高齢者ばかりの町内会だけでは対処しきれない」と悩む。被災地では、ボランティアの力を求めている。

宮古市の主な被災状況

店舗内が浸水し、泥の付いた棚を洗う住民ら＝宮古市田老・道の駅たろう

土砂崩れで全面通行止めとなった国道45号宮古第3トンネル内＝宮古市崎山

1階部分が土砂や流木に押しつぶされた住家＝宮古市白浜

地面がえぐられ、傾いた軽トラック。多くの災害ごみも発生している＝宮古市津軽石

川から流れ込んだ土砂で護岸が破壊された重茂漁港＝宮古市重茂

リポート②　宮古市
住民生活に打撃深刻

台風19号の豪雨で崩落した市道。仲組、追切2地区では孤立状態が続く＝16日、宮古市重茂

住家に流れ込んだ土砂を片付ける高校生。被災地では、ボランティアの力が必要とされている＝20日、宮古市日浜

断水続き募る危機感
田老、重茂地区

宮古市田老では台風19号豪雨で道の駅たろうと隣の田老野球場が被災した。産直施設は21日に営業を再開したが、震災復興と地域経済を引っ張る拠点施設だっただけに、関係者の落胆は大きい。

地区の466世帯1222人(21日時点)では断水が続く。水源と配水場をつなぐ配管が破損し、現場に向かう道路も被災した。給水は何とか実施しているが、用途は主に飲料。入浴や洗濯、泥の清掃などに使うほどの水量はない。

道の駅でまつばや餅店を営む赤沼正勝さん(49)は工場の断水で、まんじゅうや団子が作れない。「道具を洗う水も大量に必要だが、何も作業が進められない」と苦悩する。

重茂半島の仲組(18世帯46人)、追切地区(20世帯65人)では市道が20カ所ほど崩落。車が往来できず孤立状態が続き、道路の地中を通る配水管の損傷で断水も長引いている。

住民は飲料水を温めて体を拭き、買い物は市街地側に待機させた車を共同利用している。厳しい生活環境の中で18日未明、70代女性が急病で搬送されるなど危機感は高まる。漁業加村信一さん(68)は「一日も早く道を通してほしい」と切実に訴える。

県外から支援に入った給水車を利用する住民。市内では今なお断水が続いている＝15日、宮古市田老

山田町に町の被災状況報告
東北地方整備局

台風19号による山田町内の土木構造物の被災状況を調査していた東北地方整備局の緊急災害対策派遣隊は21日、同町に調査結果を最終報告した。町内の道路や河川など30カ所が被災。豊間根、船越地区の被害が大きく、土木構造物の概算被災額は計1億2240万円だった。

同隊は16日から11人態勢で活動。最終報告は町役場で行い、同隊の代表が佐藤信逸町長らに被災状況を伝え、報告書を手渡した。

報告によると、水路や道路が損傷した30カ所で応急対応が必要だった。内訳は織笠地区が2カ所(概算被災額150万円)、大沢地区が3カ所(同640万円)、豊間根地区が9カ所(同9220万円)、船越地区が16カ所(同2230万円)。

佐藤町長は「このような災害がいつまた牙をむくか分からない。町民の安心安全のため活用していく」と語った。

台風19号義援金受け付け

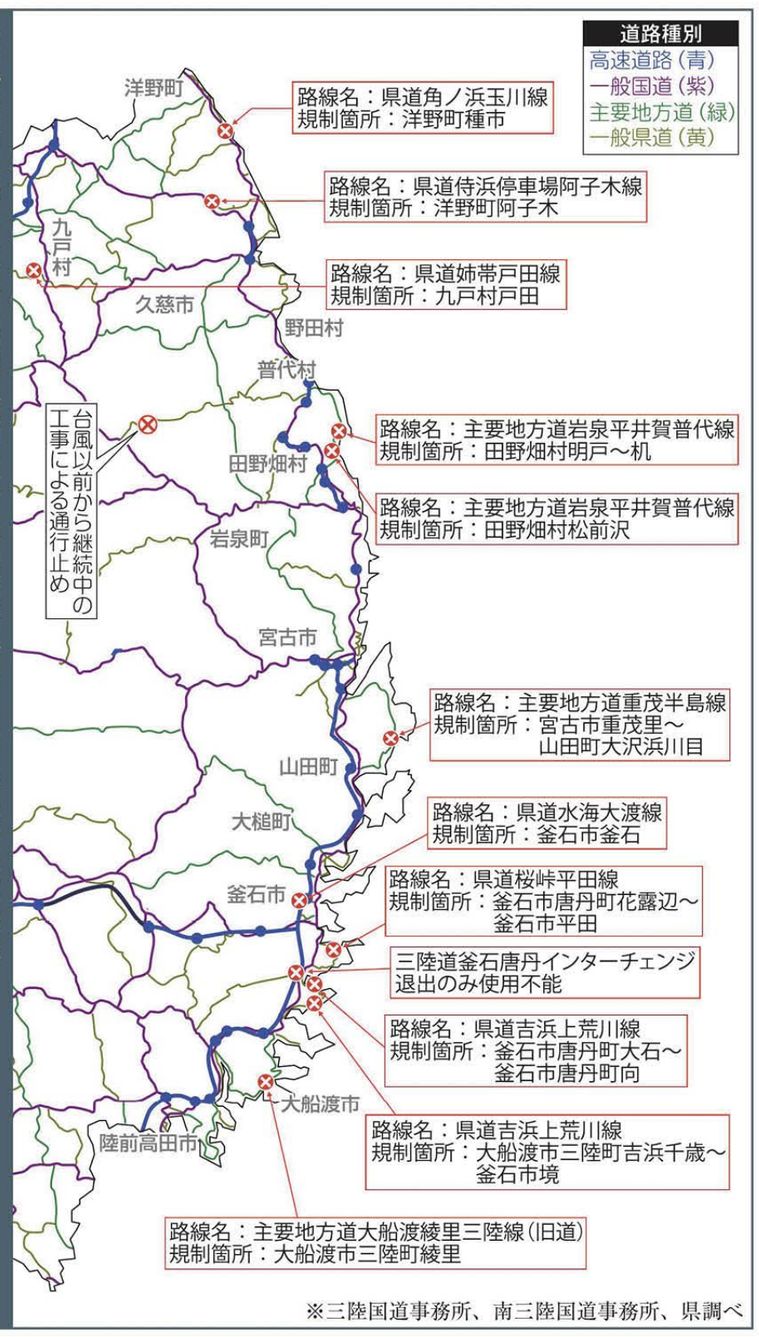
【日赤県支部】
岩手銀行本店(普)0504545(日本赤十字社岩手県支部支部長　達増拓也)

【県共同募金会】
岩手銀行本店(普)2292155(社会福祉法人岩手県共同募金会　令和元年台風19号災害義援金　会長　長山洋)

【三陸鉄道】
岩手銀行宮古中央支店(普)2105683(三陸鉄道株式会社代表取締役社長　中村一郎)

【普代村】
岩手銀行野田支店(普)2030230(普代村令和元年台風第19号災害対策義援金　普代村長　柾屋伸夫)

台風19号に伴う主な道路の全面通行止め箇所(10月21日午後5時現在)



※三陸国道事務所、南三陸国道事務所、県調べ

産直待望の一部再開
地元客、買い物楽しむ
冷蔵設備などは未復旧

台風19号で被災した宮古市田老の道の駅たろうの「産直とれたろう」は21日、営業を一部再開した。冠水したレジや冷蔵冷凍設備などは完全に復旧しておらず品数も少ない。それでも生産者は手塩にかけて育てた野菜や果物を販売。地元客らは約1週間ぶりの道の駅での買い物を楽しんだ。

宮古・道の駅たろう

午前9時の開業と同時に、再開を待ちわびた人たちが入店。一面泥で埋まった店舗内はすっかりきれいになり、五つの生産者が収穫したリンゴやネギ、白菜などが並べられた。

産直休止の間、販売場所がなく傷んだ野菜を廃棄してきたという同市田老の農業川戸マサさん(74)は「収穫が遅れ)大きくなりすぎたものもある。収入となるので再開はありがたい」とにっこり。母親が暮らす同市田老に定期的に帰省している千葉県浦安市の有好満紀子さん(59)は「車がなく、台風後は近くで野菜が買えず困っていた」と喜んだ。

同施設は床上約1㍍まで浸水。レジが被災し使えないため、22日までは青果を中心に生産者が対面販売する。7台あった魚などを並べる冷蔵冷凍ケースのほとんどが被災したほか、ブレーカーなど電気設備も修理が必要で本格再開には1カ月ほどかかる見通し。

東日本大震災で甚大な被害を受けた田老地区の復興を担う道の駅を救うため、台風19号後、延べ千人以上が復旧作業に当たった。道の駅たろう連絡協議会会長で、地元のリンゴ農家畠山一伸さん(55)は「生産者が商品を販売する場をいち早く提供したかった。多くの協力、支援のおかげで一部再開にこぎつけることができた」と感謝した。

同日は、道の駅敷地内にあるニューヤマザキデイリーストア道の駅たろう店、まつばや餅店も営業を一部再開した。

一部再開した道の駅たろうの産直とれたろうで、商品を対面販売する生産者（右）

●●●　災害義援金　●●●　10月15～18日

東日本大震災
◇岩手日報社窓口扱い
▽500円　盛岡市、匿名
◇銀行振り込み
▽1万3500円　ミヤゾツウウン(カ)チヤリテイコンペジムキヨク
▽千円　ウジイエコウキ
◇累計6432件　4億8641万6203円

義援金は日赤県支部を通して被災者救援に充てられます。義援金の金額、累計は毎週月曜日に掲載します。銀行振り込み分は全て、通帳記帳通りの表記で掲載されます。

台風19号に伴う沿岸市町村の災害ボランティアセンター

市町村	開設場所	連絡先(各市町村社協など)
久慈市	市役所議会棟入り口(川崎町1の1)	0194・54・8006
野田村	村社協(野田17の107)	0194・71・1414
普代村	村社協(13地割普代169の1)	0194・35・2100
岩泉町	町社協(森の越4の14)	0194・22・3400
田野畑村	島越地区コミュニティセンター(松前沢1の115)	0194・33・3025
宮古市	イーストピアみやこ(宮町1の1の30)	090・1069・0461
山田町	町保健センター(八幡町3の20)	080・5743・6731 080・5743・2679
釜石市	シープラザ釜石(鈴子町22の1)	080・5737・2952

この紙面の著作権は岩手日報社が保持しています。無断転載、複製及び配布は禁止します。